



リレー・フォー・ライフ

# RFL「セルフウォーキリレー」

## 目標の3億歩を達成！

電話相談 5414 件分の寄付



夜通し歩いてたすきをつなぎ、がん患者と家族の支援やがん征圧を呼びかけるチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ」(RFL)は昨年、新型コロナウイルスの感染拡大でリアルイベントの開催が困難となった。その対応策として考えだされたのが「RFLセルフウォーキリレー」。参加者が好きな時に好きな場所で歩いた歩数をスマホアプリに登録することなどで、歩数に応じた金額が支援企業からマッチング寄付される新しい形のオンラインイベントだ。この新しい試みが昨年10月24日から11月23日までの1か月間にわたって開催された。

主催は日本対がん協会と全国10地区のRFL実行委員会。がんサバイバーのタレント・原千晶さんやお笑い芸人・だいたひかるさんらもアンバサダーとして共に歩いてくれた。ホームページやSNSでの発信をはじめ、各地区の実行委員会が地元メディアを通じて企画を報道してもらった結果、全国で2006人が参加し、目標としていた3億歩を達成した。

リレー・フォー・ライフへの特別協賛企業15社や実行委員会を経由し集まった寄付額は2165万円。日本対がん協会が運営している無料電話相談「が

### セルフウォーキリレー 最終結果



ん相談ホットライン」の相談5414件分の運営費用に充てられる。

セルフウォーキリレーの発案者である苦小牧(北海道)の実行委員・貴美さんは、次のようなメッセージが協会に寄せられた。

「途中、病院や病棟で過ごす日もありましたが、どんな時もどこかの誰かに繋がっている。直接会う事ができなくとも、その場に行く事ができなくても皆さまからの素敵な写真やコメントで“つながり”を感じ、明日への希望と勇気をいただきました。1カ月間、どうもありがとうございました」

また多くの参加者から、テレワークや自粛が続くなか、自分自身の健康を見直すよい機会になった、という感想が届いた。企業の健保組合が主催するウォーキングプログラムとの連動参

加も見受けられた。

2021年のRFL活動も新型コロナの影響を避けられそうにない。屋外で開催するリレーイベントは気象をはじめ外的要因に左右されることが少なくないが、そうした影響を受けにくいオンラインのニーズはコロナ禍で一挙に高まった。

日本のリレー・フォー・ライフは、2006年に茨城県つくば市で試験的に開催されたのが始まりだった。15年の月日を経て、時代と共にリレー・フォー・ライフも進化する時がきたようだ。

(日本対がん協会事務局長・岡本宏之)



発案者の貴美さん